腎臓病検診

●腎臓病検診とは？

学校腎臓病検診は急性、慢性腎炎などの、慢性腎不全に進行する恐れのある慢性腎障害の早期発見・早期治療を目的として、3歳児検尿は先天性腎尿路奇形などの慢性腎不全に至る可能性のある慢性腎障害の発見を目的として、行われています。IgA腎症、膜性増殖性腎炎の70%が学校腎臓病検診で発見され、慢性糸球体腎炎による透析導入者は激減しました。

●なにも症状がないのに腎臓病！？

腎臓病はなかなか症状には現れづらく、自覚症状が出現したときにはかなり病状が進んでしまって腎臓の機能に影響がでてしまうことがあります。浮腫や肉眼的血尿（赤いおしっこや黒いおしっこ）、疲れやすい、難聴、おねしょ、身長が低い、手足のしびれなどの症状があるときには教えてください。

検診で異常を指摘されたからといって必ずしも病気があるとは限りませんが、精密検査を勧められたら、症状がないからといってそのままにせず、必ず受診してください。

●精密検査では何をするの？

尿検査や血液検査、超音波検査などを行います。検尿時の注意点として、正しく早朝第一尿を採るようにしてください。

- ① 検査前日は寝る前に完全に排尿して寝る。
- ② 当日の朝に起きた直後の尿を採る。
- ③ 検査前日は激しい運動を避ける。
- ④ 月経を外して検尿を行う。
- ⑤ ビタミンCの摂取を控える。

●腎臓病検診でよく指摘される異常

・起立性（体位性）蛋白尿

蛋白尿のみの異常を指摘された際に最も多い原因です。早朝第一尿で尿蛋白が検出されず、来院時尿で検出されます。

・良性家族性血尿

顕微鏡的血尿単独の場合には予後は基本的に良好です。蛋白尿が出現するようになり、見た目でもわかるような血尿が出たりする場合には精密検査が必要となります。

・慢性糸球体腎炎

腎臓のろ過機能を持つ部分の炎症で、蛋白尿と血尿がともに出てくるようになります。無治療では腎不全となる可能性があり、高次医療機関での検査、治療が必要となります。

ここにあげた異常所見は代表的なもので、その他にも様々な理由で精密検査を勧められる場合があります。検診の結果と、学校生活管理指導表を持参の上、当科外来を受診してください。